

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスばずる			
○保護者評価実施期間	2025/1/22～2025/2/10			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	2025/1/22～2025/1/31			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	機能訓練担当職員として言語聴覚士・理学療法士がいることから様々な角度から療育へのアプローチができています	支援前の打ち合わせや、支援後にはフィードバックを行っている。カリキュラム作成の際も様々な資格を持つ職員が話し合い、一人一人に合った支援方法を話し合うことができています	面談の他、メールや電話で保護者の方との情報共有を丁寧に行い寄り添いながら連携しより良い支援につなげていく
2	基準より多くの職員を配置していることから急な個別の対応も可能である	支援中の児童の様子を見ながら個別対応が必要と判断した場合、空き部屋を利用し対応を行っている	部屋数の問題もあるが、個別での部屋が確保できない場合気分転換も兼ね外に連れ出すなどの工夫も今後必要となってくる(対応職員の育成)
3	子どもたちが飽きず楽しみながら社会性が身につくよう、様々なカリキュラムを提示している	公共施設への外出活動、夏祭りやクリスマスなどの季節の行事、体育館での運動活動など、様々な体験ができるようなカリキュラムを組んでいる。また、社会生活に必要なスキルを身につけるためのSST活動を取り入れている	地域の情報を集め、地域の方々との交流を深められるような活動を取り入れていく

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	機能訓練担当職員や、療育経験の長い職員がいるにもかかわらず個別での部屋がないことから専門的支援実施加算が算定できない	集団療育メインであるが必要に応じ個別での支援に関しても実施したいと考えてはいるがスペースの確保が現在難しい	各単位ともに二部屋をオープンにし療育を進めているが今後は仕切るなど行い、専門的支援ができるよう工夫をしていきたい
2	保護者同士の交流の充実	現在保護者会もなく、平日のみの営業であることから交流の場を作ることが難しい	定期的イベントのような形で、保護者同士の座談会や、交流会を企画したい
3	非常時発生の備えやマニュアル等についての周知ができていない	重要事項説明書を説明する際に、非常時の備え、避難訓練の有無などについてお伝えしているが、実際に訓練の場に遭遇する機会が少ないため、イメージしにくい	重要事項説明書を説明する際、丁寧に分かりやすい説明に心掛ける。また、ホームページからリンク付けしや玄関に設置しマニュアルをいつでも読めるようにする